



有料アトラクション。上からザ・シャーロック、東京リベンジャーズ イマーシブ・エスケープ、江戸花魁奇譚

SHERLOCK HOLMES, DR. WATSON, and are trademarks of Conan Doyle Estate Ltd.®
 ©和久井健・講談社/アニメ「東京リベンジャーズ」製作委員会
 画像提供:イマーシブ・フォート東京



世界最先端のライブエンタメ 一期一会の超没入体験

イマーシブ・フォート東京 (東京都江東区)

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンや西武園ゆうえんちを再生させたマーケティング精鋭集団・刀(大阪府)が3月1日、東京お台場の商業施設「ヴィーナズフォート」跡に新たなテーマパークを開業した。完全没入体験(イマーシブ体験)を多様なアトラクションで魅せる全天候型の屋内施設だ。

大広場「ゴールデンプラザ」では日に数回、「パーティ・フェスタ」が突如として開催される。たまたま居合わせた来場者が、手を引かれて壇上にかかることも

英単語「イマーシブ(immersive)」は、物体を液体に浸したり、人物がある状況に没頭させたりする意味をもつ動詞「イマース(immerse)」に、接尾辞「ive」が付いた語。和訳すると、没入的なり、没入感のある〜といった意味合いになる。

エンターテインメント界では今、この没入体験(イマーシブ体験)が最先端にある究極と評されている。没入度合いや希少性の高さにつれて体験価格は上がり、1人百ドルを優に超す。デジタルなエンターテインメントであれば、VR機器を用いる事例が分かりやすい。

これをリアルなライブエンターテインメントでできないか。「イマーシブ・フォート東京」は、ここが開発の起点となった。刀の森岡毅代表は言う。「当施設が従来のテーマパークと何が違うんだと言われれば、ハラハラ・ドキドキの度合いが違う。お客様は傍観者ではなく当事者として、超没入体験を味わう。一期一会の感動がここにはある」。

「自分が物語の一部になる」10人が10人とも感じ方・体験の質が違う「同じ人でも10回来たら10回とも体験の価値が違う」――森岡氏は言葉を尽くして施設の特徴を挙げるが、国民の大半を占めるイマーシブ未体験者には、おそらくピンとこないだろう。

しかし1度でも体験すれば、森岡氏が言わんとすることを理解できる。「イマーシブ・フォート東京」には、体験した者しか分からないエンターテインメントがある。

世界初のテーマパーク

屋内施設としては国内屈指の広さ(約3万平方メートル)をもつ同施設では、20種類以上のイマーシブ体験を堪能できる。アトラクションがイマーシブ体験だけで構成され、かつ、複数種類を用意するテーマパークは世界に二つとない。刀が自社で企画・開発から運営まで手掛けている点も初めてのこの入場に必要な「イマーシブ・フォート東京」入場料は、大人6800円、子ども(小学生以下)3800円。後述する有料アトラクション(A、B、C)以外を体験する場合は、Bを体験する場合は、18歳以上高校生以上は追加で9000円、Cは追加で9000円。購入で、最大10000円。

続きはデジタルブックでご覧いただけます。

詳細はこちら▶

※A=ザ・シャーロック、B=東京リベンジャーズ イマーシブ・エスケープ、C=江戸花魁奇譚。



森岡氏